

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度前期）短期大学部

記入年月日	2014年 08月 05 日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 () 選択 学科・課程専門科目： () 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものを○)	() 1年 () 2年
授業科目名	Or a l E n g l i s h 2 A
担当教員名	S a k a n o u e A n a m a r i a

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記 入 欄

The main objectives of this class is to strengthen all aspects of the students' English and speaking incorporating the other skills as well: writing, reading and speaking. This is a well-rounded course where students will be working to improve the four skills through presentations, discussions, reading comprehension activities, note taking and writing journals.

The survey conducted in June 2014 has showed three significant results about the class. The first one is that 14 out of 21 students do not have the habit of previewing or reviewing the lessons. This is an important number since homework is about 20% of the final grade. The teacher needs to emphasis the importance of studying at home and reviewing the contents of the class for reinforcing the vocabulary and topics learned in the class. The second significant point which came across is 13 out of the 21 students cannot sometimes understand the contents of the lessons. This may be linked to the need of having the students preview and review the contents of the lessons at home. Actually the three students who have acquired the habit of studying at home have found the lessons contents easy to comprehend. The third important point is about the pacing of the lesson: 13 out of 21 students found the pacing just right for their level. Six of them feel the lesson's pace is a bit too fast.

In the fall semester the teacher needs to work on emplacing the importance of the habit of studying at home, by incorporating the journal into the grade percentage (10% of the final grade) and adjusting the difficulty level of the lessons and have the students check and use the key vocabulary more consistently by making sentences and dictation. Instead of moving at a faster pace, the teacher will recycle the already taught language through listening and writing exercises.

※ 本報告書は公表いたしますので、それを前提にご記入下さい。

※ 報告内容につきましては、ご自身の次年度の授業に活用していただくほか、短期大学部全体の授業の質的向上に役立てさせていただきます。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度前期）短期大学部

記入年月日	2014 年 8 月 31 日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 () 選択 学科・課程専門科目： () 必修 () 選択必修 (✓) 選択
対象学年 (該当するものを○)	(✓) 1 年 () 2 年
授業科目名	観光英語（前期 1 単位）
担当教員名	武内一良

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記入欄

【授業の目的】

この科目は、履修者が海外旅行で必要となる英語力を測る観光英語検定 3 級（全国語学ビジネス観光教育協会主催）に合格することを目指すものである。観光英検 3 級は 60 分の筆記試験と 30 分のリスニング試験から成るが、本科目は 60 分の筆記試験で合格点を獲得することを狙いとする。履修登録確定後に受験料 ¥3,600 を回収し、授業担当者が一括申し込みを行う。少し乱暴ではあるが、観光英検 3 級は日本英語検定協会が主催する実用英語技能検定準 2 級レベルの基本的な英語力に加え、観光に関する知識を問うものと説明することもできよう。実際の検定試験は、授業終了後の後期、すなわち本年度は 2014 年 10 月 26 日に実施となる。

【使用教材】

全国語学ビジネス英語教育協会観光英検センター(編)『山口百々男(監修), 観光英検 3 級の過去問題+解答と解説』三修社

【授業の概要】

- ① 4 月 22 日(火) 観光英語検定（観光英検）の概略、授業進行と評価方法の説明
- ② 4 月 29 日(火) 観光英検過去問題（筆記 60 分）の実施
- ③ 5 月 13 日(火) 前回の答案返却、観光英検過去問題（リスニング 30 分）の実施と解答
- ④ 5 月 20 日(火) 観光英検設問 1（語彙力）対策講座その 1
- ⑤ 5 月 27 日(火) 観光英検設問 1（語彙力）対策講座その 2
- ⑥ 6 月 3 日(火) 観光英検設問 5（日本の観光地理）対策講座、練習問題
- ⑦ 6 月 10 日(火) 観光英検設問 5（世界の観光地理）対策講座、練習問題
- ⑧ 6 月 17 日(火) 観光英検設問 2（状況における英会話）対策講座、練習問題
- ⑨ 6 月 24 日(火) 観光英検設問 3（単語の並べ替え）対策講座、練習問題
- ⑩ 7 月 1 日(火) 観光英検設問 4（広告読解）対策講座、練習問題
- ⑪ 7 月 8 日(火) 観光英検設問 4（広告読解）対策講座、練習問題
- ⑫ 7 月 18 日(金) 補講日：過去問題 1（筆記 60 分）
- ⑬ 7 月 22 日(火) 過去問題 2（筆記 60 分）
- ⑭ 7 月 29 日(火) 過去問題 3（過去問題 1 及び 2 での既出問題を含む）
- ⑮ 8 月 5 日(火) 最終試験（観光英検過去問題の一部とオリジナル問題）

【評価方法】

過去問題 1 及び 2 の結果でどちらか高い方 30%（過去問題 1 が補講日に当たったため）と、過去問題 3 の結果 30%、そして最終試験の結果 40%の合計によって評価を行った。

【アンケートの分析結果】

英語コミュニケーション学科では、4月に新生を対象とした英語実力試験（外部団体委託）を実施している。この試験は、語彙 50 点、文法 50 点、リーディング 100 点、リスニング 100 点より構成されており、本学科はこの結果によってクラスを E1、E2、E3、E4 の 4 レベルに分け、学科専門科目（必修科目）の Oral Communication 1A と 1B、Listening 1A と 1B、Reading 1A と 1B、Grammar & Usage 1A と 1B を行っている。この英語実力試験の本年度受験者 127 名の平均点、最高点、最低点は以下の通りとなっている。

平均点	152.4 点 (300 点満点)
最高点	258.0 点 (TOEIC 795 点取得者)
最低点	127.0 点

上記試験で正解率 60%（180 点）を獲得した学生は、127 名中上位 27 名にとどまる。本科履修者 45 名中アンケート（8 月 5 日実施）に答えた 41 名（5 名欠席）の英語実力試験結果は、以下に示した通り。

平均点	146.4 点 (300 点満点)
最高点	171.0 点
最低点	130.0 点

正解率 60%（180 点）を上回る学生はいない。アンケートに回答していない 5 名の学生も正解率 60%を下回っている。

こうした学生層に対して、予習・復習の習慣の有無を聞いた質問の回答は以下の通りで、ほとんどの学生は予習・復習の習慣がないと答えている。

全くしない	4 名 (9.8%)
たまにすることがある	35 名 (85.4%)
ほぼ毎回する	1 名 (2.4%)
毎回する	1 名 (2.4%)

なお、アンケートの問いが予習・復習の習慣の有無に言及しているため、回答の数字が本科における習慣であるのか、高校時代から続いている習慣であるのかについては特定できない。しかし、観光英検 3 級合格を目指す学生たちが予習・復習をほとんどしない状況は、本科履修者層の学習意欲が必ずしも高いとは言えない可能性を示唆している。

次に、授業の難易度については、以下の結果を得た。

難しい	1 名 (9.8%)
理解できないときがある	18 名 (43.9%)
ほぼ理解できる	21 名 (51.2%)
易しい	1 名 (2.4%)

ここで「理解できないときがある」と回答した 18 名中、授業の進行スピードに関しては、

やや早い	7 名 (38.9%)
ちょうど良い	10 名 (55.6%)
やや遅い	1 名 (5.5%)

という分布となり、「理解できないときがある」にもかかわらず、授業速度が「ちょうど良い」と答えた学生は過半数の 10 名（55.6%）に上っている。さらに、アンケート回答者 41 名全員の内、授業の進行スピードに関しては、

早い	0名 (0.0%)
やや早い	9名 (22.0%)
ちょうど良い	30名 (73.2%)
やや遅い	2名 (4.9%)
遅い	0名 (0.0%)

という回答が得られており、前述の「理解できないときがある」と答えた学生の過半数が「ちょうど良い」としていることに加え、ここでの「ちょうど良い」と回答した30名(73.2%)、すなわち約4人に3人が授業速度に妥当性を感じていることから、本科目の授業速度に関しては一応学生の支持を得られたものと認められる。

一方、授業の効果については、第1回の授業(4月22日)で行った過去問題(筆記60分)の結果と、第12回の授業(7月18日)及び第13回授業(7月22日)で行ったそれぞれ別の年度で実施された過去問題の結果を比較した。

第1回過去問題(4月22日実施)

30点以上	4名 (9.8%)
平均点(50点満点)	23.76点

第2回過去問題(7月18日実施)

30点以上	33名 (80.5%)
平均点(50点満点)	32.46点(伸び率36.6%)

第3回過去問題(7月22日実施)

30点以上	32名 (78.0%)
平均点(50点満点)	32.30点(伸び率35.9%)

上記は、第1回の過去問題の結果に対して、7月18日と22日に行ったそれぞれ別の過去問題の結果がどの程度上昇しているかを示している。合格は60%以上であるため、筆記に関しては50点満点で30点以上が合格圏内と考えられる。4月22日実施の過去問題の結果では、アンケートに答えた41名中4名(9.8%)の学生が30点を上回るにとどまっているが、7月18日実施分で41名中33名(80.5%)、22日実施分で41名中32名(78.0%)と約8割が合格圏内に入っている。平均点ではどちらも30点を超え、伸び率も35%を超えている。最終的には、本年10月26日に実施される検定試験の結果によって測られるべきであるが、2つの過去問題の結果を見る限りでは、授業の効果は一定程度存在しているものと推論することができる。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度前期）短期大学部

記入年月日	平成 26 年 8 月 21 日
科目区分 (該当するものをに○)	共通教育科目： () 必修 () 選択 学科・課程専門科目： (○) 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものをに○)	() 1 年 (○) 2 年
授業科目名	卒業演習 A
担当教員名	萩野 敏

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記 入 欄

授業アンケートを 6 月 19 日の授業中に受講者 15 名に対して実施し、下記の回答を得た。

1. この授業のねらいは理解できていますか。

- ①理解できていない(0) ②あまり理解できていない(0)
③ほぼ理解できている(5) ④理解できている(10)

2. 授業の難易度についてどう思いますか。

- ①難しい(2) ②理解できないときがある(0)
③ほぼ理解できる(9) ④易しい(5)

3. 授業の進行スピードについてどう思いますか。

- ①早い(0) ②やや早い(0) ③ちょうど良い(13)
④やや遅い(2) ⑤遅い(0)

授業のねらいはよく理解されている、難易度に関しては一部の学生で評価が分かれているが、おおむね妥当である、進度に関しても特に問題はない、と考えられた。難易度に関して、「難しい」と回答した学生と「易しい」と回答した学生がいるのは、個々の学生の英語力やプレゼンテーション能力の差に基づくと考えられる。その後も、多様な学生が混在していることを前提に授業を進めるように努めた。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度前期）短期大学部

記入年月日	2014 年 8 月 14 日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 () 選択 学科・課程専門科目： (○) 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものを○)	() 1年 (○) 2年
授業科目名	卒業演習 A
担当教員名	日野一男

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記入欄

授業の目的

この科目は、就職・編入や、就職後のプレゼンテーションなどを視野に入れ、日本大学芸術学部大学院教授の佐藤綾子の「パフォーマンス学」を基本に「美しい立ち居振る舞い」を理論実技ともに体験することを目的としており、化粧の実技講習と「佐藤綾子のパフォーマンス講座」の特別受講を実施していることから、学生からの評価はおおむね好評といえる。

授業評価に関して。

1. 「予習・復習の習慣がありあますか」について。

授業評価に対しては、予習・復習を特に必要とする授業ではないことから、0パーセントは当然といえる。

2 「授業の難易度についてどう思うか」について。

理解できる 66.6 パーセント 理解できないときがある 26.6 パーセントである。

3 [授業の進行スピード] について。

ちょうど良い 93.3 パーセントであった。

その後の授業で注意したこと。

ただ1名でも「やや早い」と思う学生がいることにあわせ、授業の難易度についても「理解できないときがある」という学生がいることから、より理解を深めることで「早く」進んでしまうとの意識もなくせるのではないかと注意して授業にのぞんだ。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度前期）短期大学部

記入年月日	H26年 6月 20日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 () 選択 学科・課程専門科目： (○) 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものを○)	(○) 1年 () 2年
授業科目名	Grammar & Usage I A
担当教員名	藤原正道

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記入欄

対象は英語の能力別クラスの中の文法および作文の授業。90分を基本編約60分と、応用編約30分の2部構成にしている。基本編では英作文をしながら、英文法を系統立てて学習する。可能な限り会話に活用できる英文を使用することを心がけている。応用編では、選択肢を用いたTOEICや英検の問題形式による文法の学習を行っている。

4月から約2ヶ月を経過した授業の感想が、下記の結果となる。

1. 予習・復習の習慣がありますか。
 ①全くしない 13% ②たまにすることがある 87% ③ほぼ毎回する 0% ④毎回する 0%
2. 授業の難易度についてどう思いますか。
 ①難しい 0% ②理解できないときがある 30% ③ほぼ理解できる 65% ④易しい 5%
3. 授業の進行スピードについてどう思いますか。
 ①早い 4% ②やや早い 9% ③ちょうど良い 83% ④やや遅い 4% ⑤遅い 0%
4. その他授業に対する要望があれば記入してください。

- ・今のままでいいです。
- ・今のままで大丈夫です。
- ・丁寧にやってくれて助かります。単位が取れるようがんばりたいです。
- ・わかりやすいです。文法がわかり始めた。

基本編の作文は、3回分ごとに小テストを実施しているのので、1①が0%になるよう学生に学習を促した。また、2、3、4については、毎回の提出課題を学生の理解度を把握しながら添削し、授業を進めた。

可能な限り丁寧に授業を進めたが、英文法を理解し、「身につく」ことを目標に英会話への応用、発展するよう改善したい。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度前期）短期大学部

記入年月日	2014 年 8 月 9 日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 () 選択 学科・課程専門科目： (○) 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものを○)	(○) 1 年 () 2 年
授業科目名	Reading IA
担当教員名	三田 薫

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記入欄

Reading IA は英語コミュニケーション学科 1 年生対象の日本人教員担当英語必修科目である。本年度は、同時期に開講している 1 年生対象ネイティブ教員担当必修科目である Oral English IA と連動した授業を試みた。この試みの目指すところは、同一の教材を複数の教員を通して繰り返し学習することにより、語彙や表現の定着および英語で発信することへの自信を高めることである。Reading IA は三田、Oral English IA はアナマリア・サカノウエ専任教員が担当した。英語コミュニケーション学科の 1 年次英語必修科目は習熟度別クラスで行われており、本授業の対象学生は 4 段階のうち 2 番目の習熟度の学生である。授業実施にあたり、以下の点を心掛けた。

- ① 開講時間を同一曜日の連続の時間帯になるように時間割を組んだ。
- ② Reading IA ではテキストの読解と文法・語彙の学習、Oral English IA ではテキストの知識があることを前提としたグループワークやプレゼンテーションを行った。
- ③ 教材は、インターネット上に公開されている英語プレゼンテーションの中から 2 人の人物のものを選んだ。（前半は Steve Jobs のスタンフォード大卒業式スピーチ、後半は建築家坂茂の TED Talk）

中間段階で実施した自由記述のアンケート調査では、Reading IA の授業進度が速すぎるというコメントが多く見られた。語彙や表現をしっかりと身につける前にどんどん先に進んでしまうという印象を与えたようだった。そこで以下の変更を行った。

- ① 1 回に使用する教材の英文を 4 分割し、各パートについて単語やフレーズの英文和訳や和文英訳の小テストを行って自己採点させ、学生の集中力が途切れない範囲の分量で学習できるようにした。
- ② 毎回の授業の最初に前の週に実施した自己採点の小テストと同様の問題を出し、そのテスト結果が直接学生の成績に反映されることを伝えた。

学期末のアンケート調査では、授業の進度が速すぎるという感想は大幅に減り、2 時間連続で同一教材を学習することで理解しやすくなったというコメントが多く見られた。また授業を通して英語力の各技能が上がったと感じるかについての 7 段階のリッカート尺度の質問に対し、どの項目においても平均 4 以上となった。また Steve Jobs, 坂茂の教材の評価についてはどちらも平均 5 以上であった。